

宮之城町の半世紀を振り返る

本町が誕生して50年の間に、様々な施策や出来事を経て成長・発展を続けたあゆみを紹介します。今回は、昭和40年～昭和44年までの主な出来事を振り返ります。

◇昭和40年1月

汚物処理場が試験運転開始

薩摩郡東部汚物処理組合（宮之城町・鶴田町・薩摩町・祁答院町・入来町で結成）が、昭和38年11月15日から総事業費2,845万円かけて虎居（薩摩東部森林組合敷地）に建設中だった汚物処理場が昭和39年11月に完成し、昭和40年1月から試験運転を開始した。

処理場は、1日に20トンが処理できる化学式処理施設だったので、これまでの多くのし尿処理の問題を解消し、「衛生的なまちづくり」が一段と前進した。

◇昭和40年7月

宮之城郵便局が移転

鉄筋コンクリート造り一部2階建ての本館と木造平屋建ての付属建物で、総工費1,234万円の宮之城郵便局が、盈進小学校裏から自治体警察署跡に新築移転した。

1階が郵便、電信、貯金保険事務室、2階が局長室、庶務会計室、会議室となっていた。



宮之城郵便局（メガネの光学堂前）

◇昭和41年1月

町立体育館が完成

役場庁舎南に体育（バレーコート1面）、文化、教育の催し物の会場として鉄筋コンクリート造り平屋建て（一部3階建て）の立派な近代的体育館が完成した。

また、体育館の隣りに隣保館も完成し、福祉会館として、図書室、料理室、結婚式場、心配ごと相談所も開設され、町民に気軽に利用された。

◇昭和42年3月

県合同庁舎が完成

虎居の農業高校グラウンド跡に、鉄筋コンクリート造り3階建ての県合同庁舎が完成した。



町民に気軽に利用された町立体育館



鹿児島県合同庁舎（宮之城合同庁舎）

◇昭和43年1月

町社会福祉協議会が法人化

社会福祉協議会は、任意団体として福祉活動が続けてきたが、責任体制を明確にし、今後更に活発な活動をする目的で法人化した。

◇昭和43年5月

紫尾森林消防隊が誕生

紫尾山一帯の国有林や民有林の火災防止と愛林思想の普及を目的に、全国でも珍しい紫尾森林消防隊が誕生した。



紫尾森林消防隊結隊式

◇昭和44年10月

宮之城専修職業訓練校と改称

宮之城職業訓練所を宮之城専修職業訓練校と改称し、建築、木工、自動車整備の3科を置いた。